

## 公開シンポジウム「人とAIの未来スクール2019」開催

## AIを巡る高校生との真剣対話



社会を変える可能性を持つAI。だからこそ、次世代を担う若者に最新の成果を伝え、技術の在り方を共に考えたい。  
そんな研究者の思いから、公開シンポジウム「人とAIの未来スクール2019」が開催された。

## 人間とAIの未来を探る

CREST「知的情報処理」の研究テーマでもある「人間と機械が調和した協働関係」は、未来の社会に大きな影響を与える可能性がある。このため、次世代を担う若者に研究成果を紹介し、共に未来を考えることは大きな意義がある。そこで昨年12月に高校生を対象として開催されたのが公開シンポジウム「人とAIの未来スクール2019」だ。同じく情報科学関連のCREST「人間と情報環境の共生インタラクション基盤技術の創出と展開」研究領域と合同で企画された。

萩田紀博研究総括のあいさつに続き、7人のCREST研究代表者が登壇した。各講演を授業に見立てた1～6時間目までと特別授業の後には、高校生の疑問や意見を聞き、議論したいとの考えから、質疑応答の時間が1時間以上確保された。

ここで、高校生が物怖じして言いたいことを言えなくなってしまうと一計が案じられた。付箋紙に意見やそれぞれの研究者への質問を書いてもらい、指定するスペースに自由に貼ってもらう形式にしたのだ。工夫のおかげもあってか、数多くの意見や質問が寄せられた(写真下)。



紹介しきれなかった質問への回答をウェブで公開中!

URL:

<https://www.jst.go.jp/kisoken/crest/research/activity/1111083/sympo2019/index.html>



## 社会への影響を考えた研究を

登壇した研究者に対して、「人間は自分が答えを知らない、わからないとわかるけれど、AIにはそれがわからないという話が印象的だった」といった感想や技術に関する高度な質問に加え、「高度化したAIに頼り過ぎてしまうと、人間が駄目になり、いろいろなことができなくなるのでは」といった意見も挙がった。さらに、「将来、AIは人間の仕事を奪うのでしょうか」、「どうしたら人間とAIは共生できるのですか」といった疑問も投げかけられた。

慶應義塾大学の山口高平教授は「仕事を細かく分解すると数多くのタスクに分けることができ、人間が得意なこと、AIが得意なことで役割が分担されていくでしょう。そうするとAIを導入して効率的な業務の遂行を支援するAIコンサルタントのような新しい仕事が出現するはずです」と答えた。さらに人間の行動を計測するソーシャル・イメージングの研究に取り組む、筑波大学の鈴木健嗣教授が「僕が高校生の頃、駅の改札では駅員さんが切符切りをしていましたが、自動改札が普及し

て、この業務はなくなりました。同じようにAIの普及で失われる業務はあるでしょうが、それは人間がしなくてもいい業務から解放されただけ。その空いた分をどう活用するかも、人間の知恵や創造力次第です」との考えを示した。

また、招待講演者で東京大学の長井志江<sup>ゆきえ</sup>特任教授は「AIに期待を抱くか、不安を感じるかには、持っている知識の量も影響します。AIを漠然と恐れるのではなく、人間とAIの関わりによって新しい知が生まれることにも期待してほしい」と語った。

1時間余りの議論をまとめる形で、萩田研究総括は高校生に向けて「これまでの研究開発は、どんな技術が生み出せるかを考えるだけでよかったが、これからの時代は、開発した技術が社会にどんな影響を与えるのかも考えながら研究する時代になってきました。もしも皆さんが研究者になったら、社会への影響を考えながら取り組んでください」とエールを送った。近い将来、会場に集まった高校生の中から、人間と機械の調和的な関係を見いだす、次世代の研究者が登場するに違いない。